

住友ファーマ株式会社

【証券コード：4506】

2023年3月

執行役員

コーポレートガバナンス・コーポレートコミュニケーション担当、コーポレートガバナンス部長

野口 直記

■ 将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

■ 本日のご説明内容



医薬品業界



住友ファーマの概要



研究開発

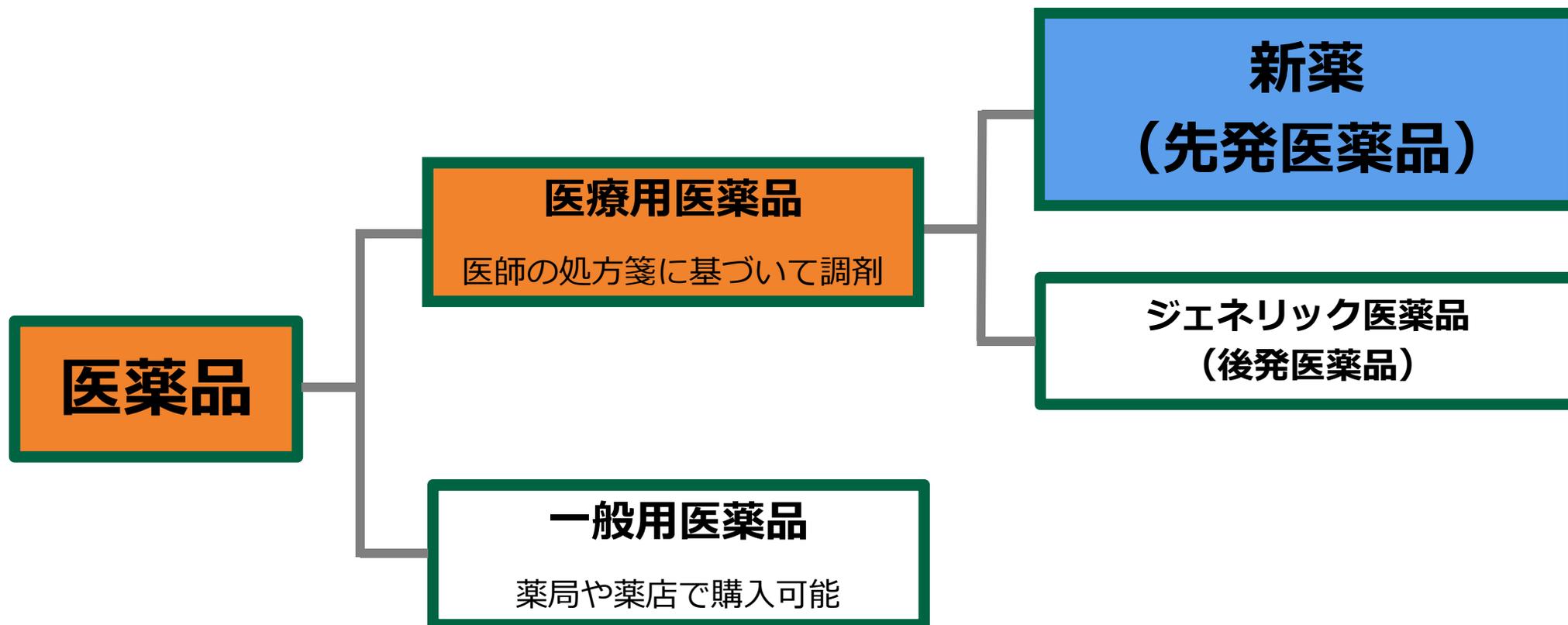


経営成績、投資・株主還元方針



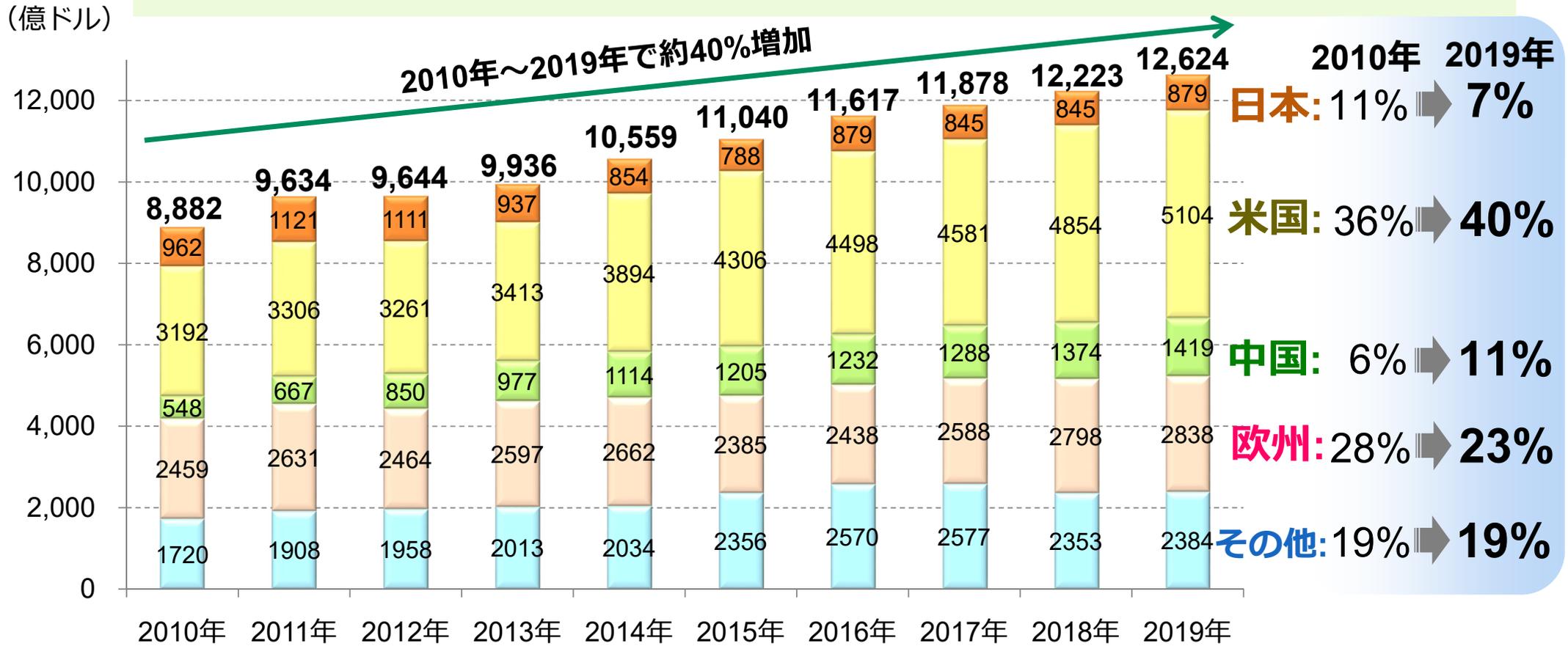
医薬品業界

日本の医薬品市場



世界の医薬品市場（販売額推移）（2019年）

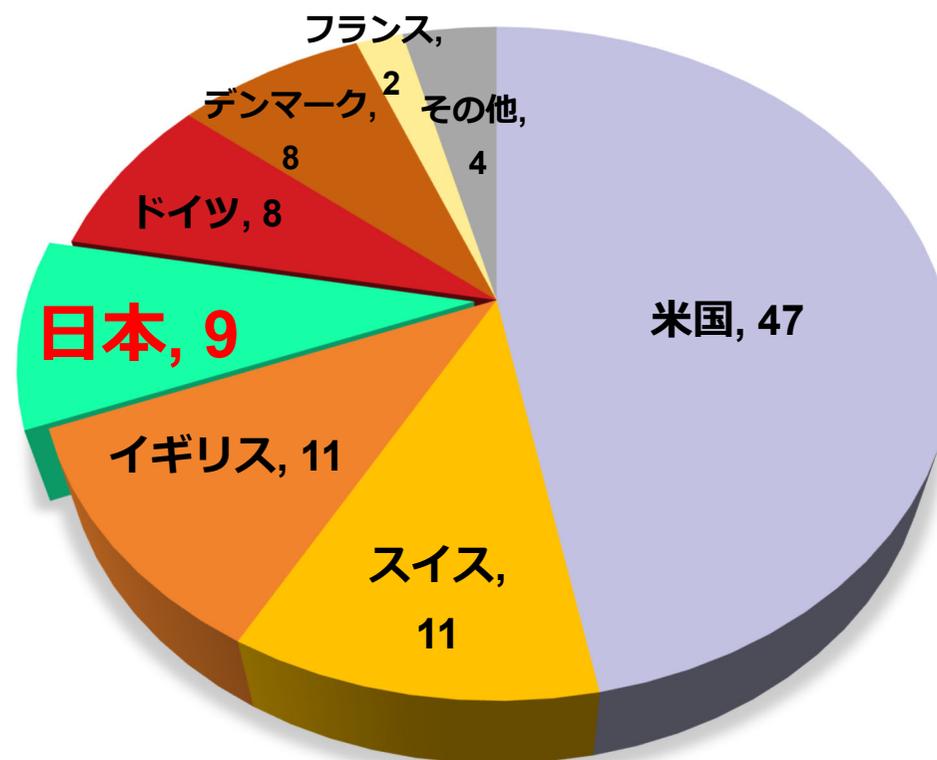
1位 米国、2位 中国、3位 日本



(出所：Copyright© 2020 IQVIA. IQVIA World Review Analyst 2010-2019をもとに医薬産業政策研究所にて作成 当社一部改変（無断転載禁止）)

■ 世界売上上位100品目の主要国別起源比較（2021年）

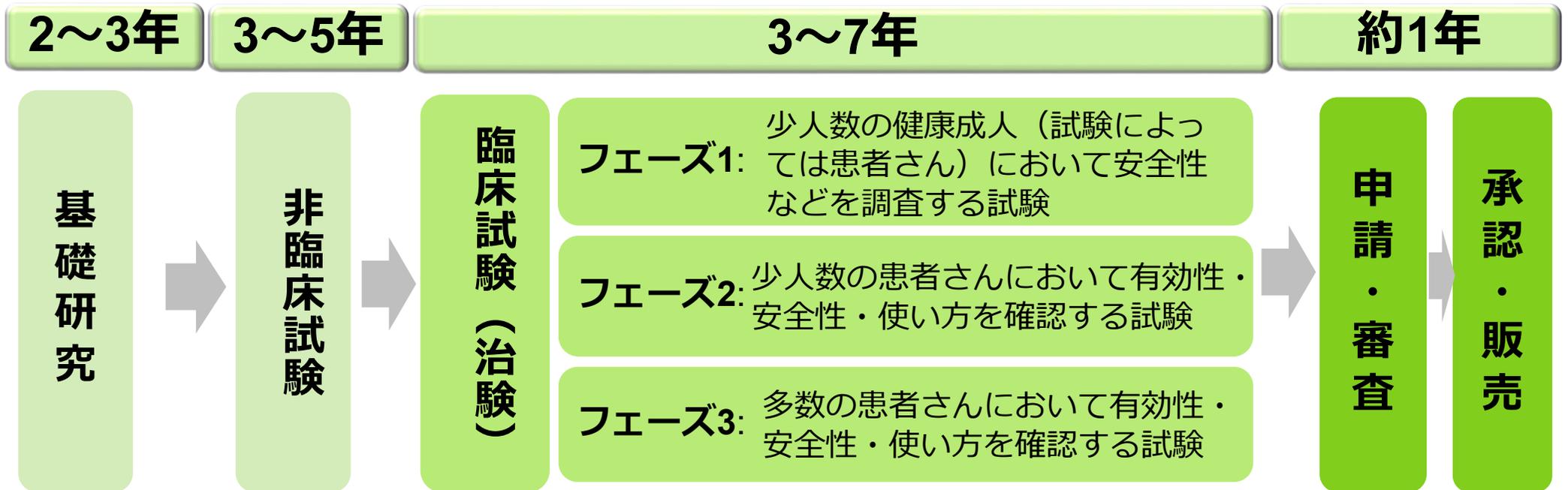
創薬力 1位米国、2位スイス、イギリス、4位日本



（出所：Copyright© 2022 IQVIA. IQVIA World Review Analyst, Data Period 2021, IQVIA Pipeline & New Product Intelligence, EvaluatePharma, Clarivate Cortellis Competitive Intelligence をもとに医薬産業政策研究所にて作成（無断転載禁止）。出典：医薬産業政策研究所 政策研ニュース No.67 2022年11月 当社一部改変）

■ 新薬の研究開発プロセス

新薬の開発期間 **9～16年**、成功確率 **約25,000分の1** (低分子医薬品)

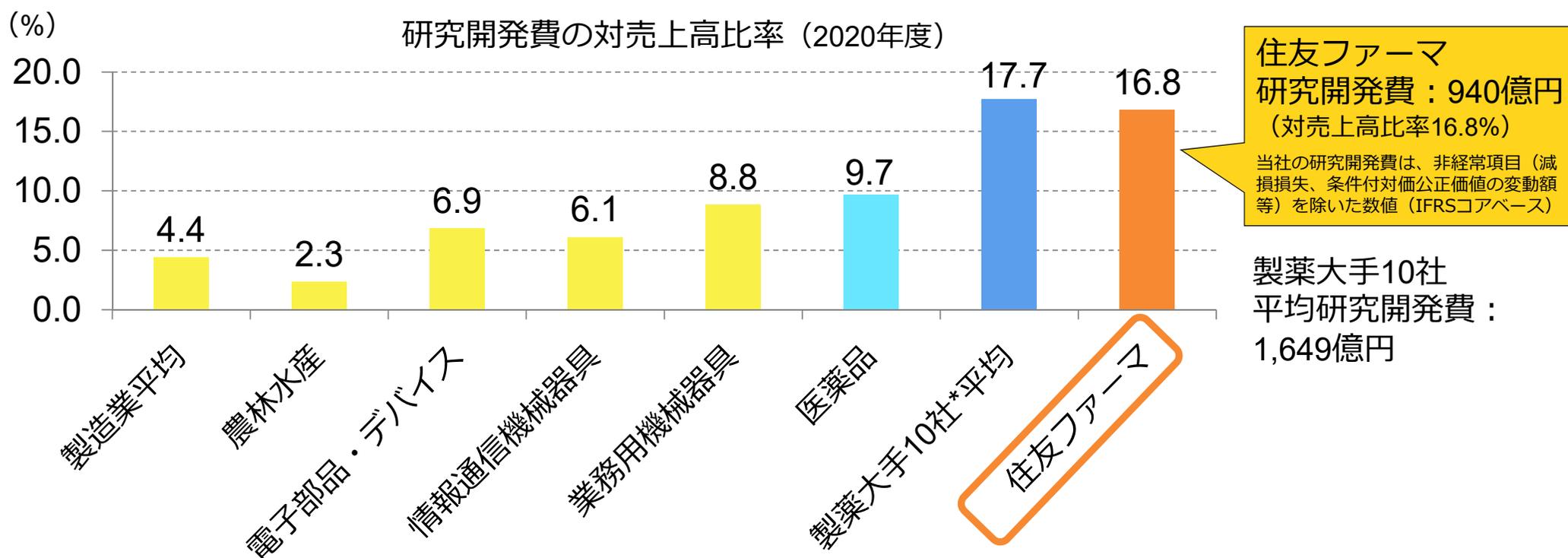


* 非臨床試験：
動物や培養細胞を使用し、薬の候補である物質の有効性と安全性を調べる試験

研究開発費

多額の研究開発投資

世界各国で後発医薬品の使用促進など医療費抑制が進むなか、当社は多額の研究開発費を投じ、新薬の創出を目指している



(出所：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」、SPEEDA（株式会社ユーザベース）、有価証券報告書 出典：日本製薬工業協会 DATA BOOK 2022より当社にて作成)

製薬大手10社：武田薬品工業、アステラス製薬、第一三共、エーザイ、田辺三菱製薬、住友ファーマ、塩野義製薬、小野薬品工業、大塚ホールディングス、協和キリン



住友ファーマの概要

会社沿革

旧大日本製薬

- 1897年 (明治30年) 5月14日設立
大阪・道修町の有力薬業家21名により、大阪製薬株式会社が設立される。
- 1898年 大阪・海老江に製薬工場(旧大阪総合センター)を設置。
東京にあった半官半民の大日本製薬会社を吸収合併し、社名を大日本製薬株式会社に改称
- 1927年 気管支拡張・鎮咳剤「エフェドリン『ナガサ』」新発売
- 1988年 米国駐在事務所開設
末梢循環改善剤「プロレナール」発売
- 1998年 消化管運動機能改善剤「ガスモチン」発売

旧住友製薬

- 1944年 住友化学工業株式会社(現在の住友化学株式会社)が医薬品部門に進出
- 1984年 (昭和59年) 2月6日設立
住友化学の医薬事業の研究、開発、製造部門と、住友化学の医薬品の販売総代理店であった稲畑産業株式会社の医薬販売部門を継承して、住友製薬株式会社が設立される。
- 1993年 Ca拮抗剤「アムロジン」発売
- 1995年 抗生物質製剤「メロペン」発売
- 1999年 住友製薬アメリカリミテッド設立

2005年10月 大日本住友製薬(現 住友ファーマ) 誕生

合併によって目指したもの

- 国内市場でのプレゼンス拡大
- 研究開発の強化
- 自社海外展開

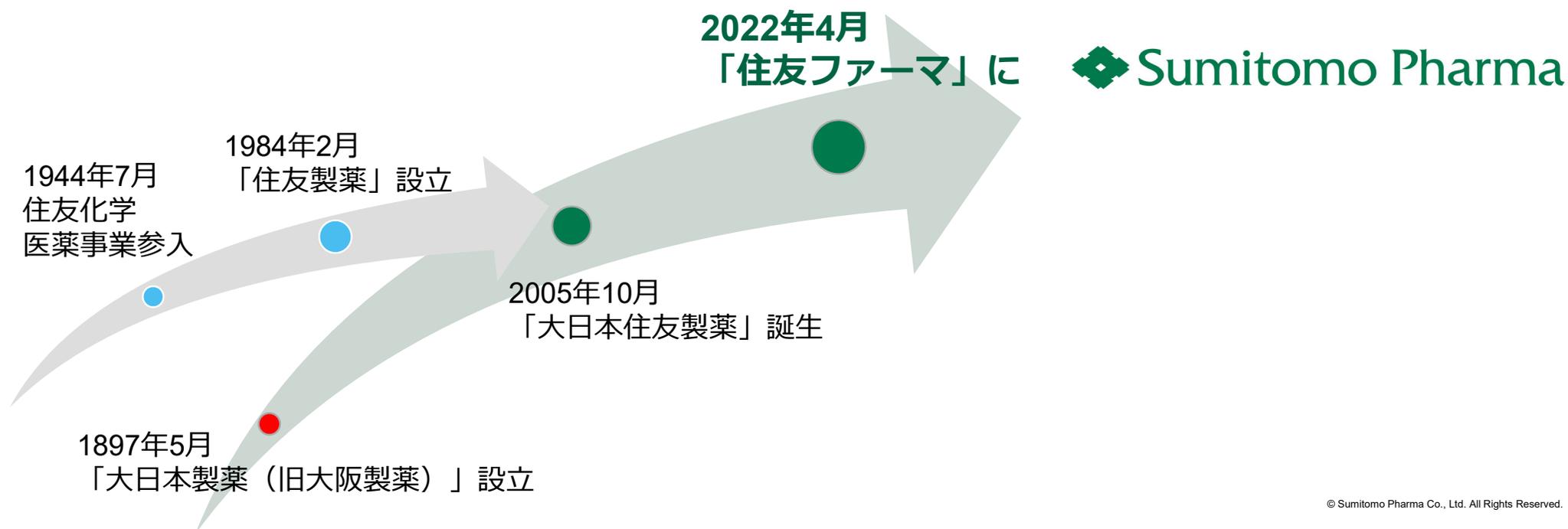
■ 2022年4月 大日本住友製薬から「住友ファーマ」に

■ 背景

- ✓ 合併以来、事業のグローバル化を実現し、がん領域、再生・細胞医薬分野、フロンティア事業といった新たな領域への参入、大型買収・提携など数々の挑戦を行い、合併当時とは会社の姿が大きく変容した。

■ 目的

- ✓ 当社が更に発展し続けるために、グローバルに通用する「住友」ブランドを最大限活用し、新たな事業ステージに向けて変化するため、商号を「住友ファーマ株式会社」に変更した。



■ 事業内容（連結）

■ 医療用医薬品の製造、販売

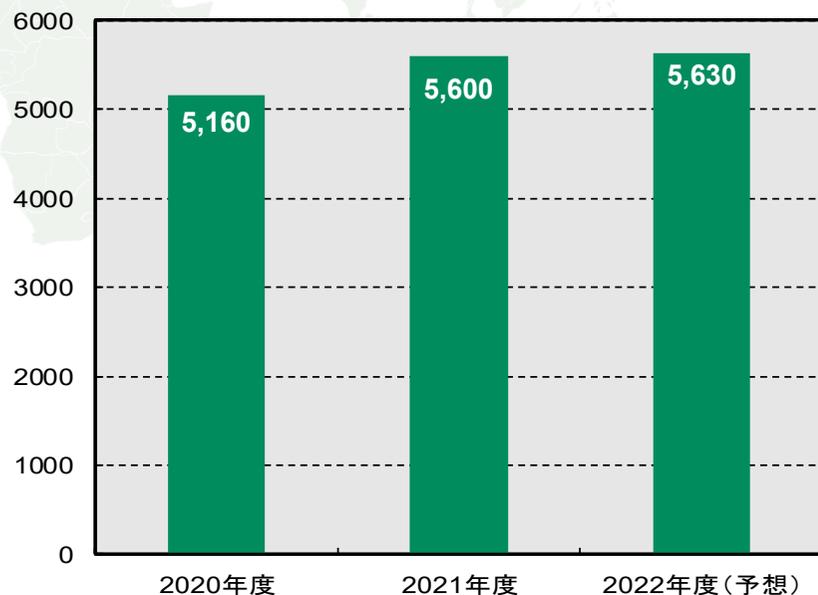
✓ グローバル開発を基本に新薬継続創出に向けた研究開発を行い、国内・海外で展開

■ 医療用医薬品売上収益順位（2020年、関連事業収益除く）

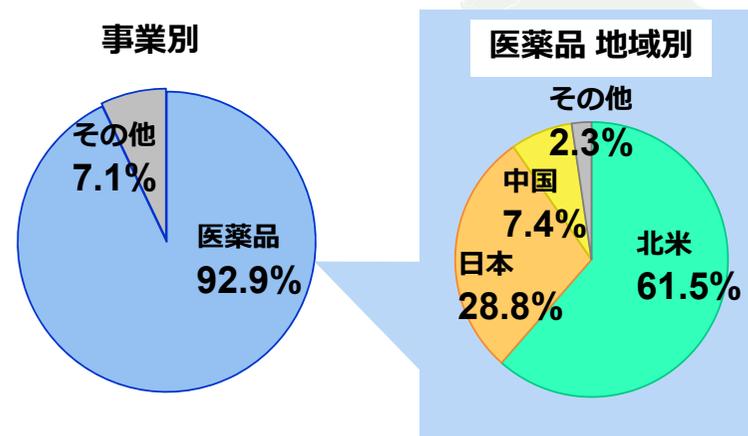
✓ 4,837億円 世界35位 国内6位

出典：日経バイオテクONLINE 2021年4月26日掲載 「世界の製薬企業収益ランキング-2020年度」当社一部改変

（億円） 売上収益推移（IFRS）



売上収益内訳（2021年度）（IFRS）



■ 当社の強み

研究開発力

研究重点3領域を中心とした特徴ある研究開発力

精神
神経

がん

再生
細胞

重点3領域

人材

個々の従業員の能力を活かす仕組みと優れた人材



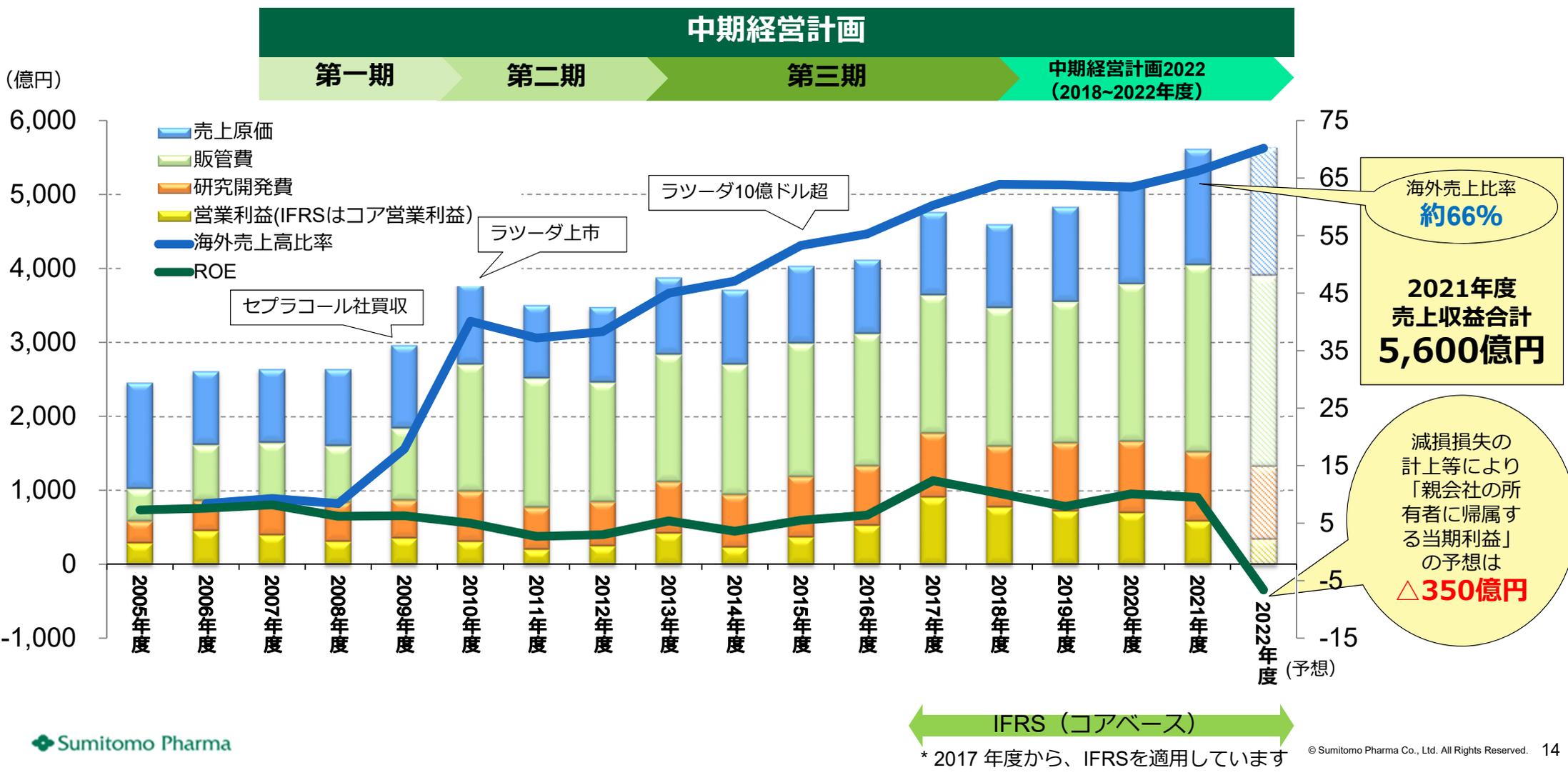
グローバル基盤

日本・米国・中国に現地本社機能・販売機能・開発機能など強固な基盤を有する



○ 当社グループ会社

当社発足後の業績推移



■ 中核製品「ラツーダ」の独占販売期間終了

- 自社創製品、米国で統合失調症治療剤として発売（2011年）、双極Ⅰ型障害うつへの適応を追加（2013年）
- 北米での売上収益は2,041億円（2021年度）、抗精神病薬で世界2位、精神神経領域で世界3位の売上収益
- 米国ラツーダの独占販売期間は、2023年2月に終了し、売上収益は大きく低下する見込み

● 2021年 抗精神病薬、精神神経領域製品 世界売上収益順位

（百万ドル）

| 抗精神病薬順位 | 精神神経領域製品順位 | 製品名 | 主な適応疾患 | 企業名 | 2021年売上 |
|----------|------------|-----------------|-----------------|---------------|--------------|
| 1 | 1 | ゼプリオン/インヴェガサステナ | 統合失調症治療薬 | J&J | 4,022 |
| - | 2 | ビバンセ/バイバンス | ADHD治療薬 | 武田薬品 | 2,976 |
| 2 | 3 | ラツーダ | 非定型抗精神病薬 | 住友ファーマ | 1,920 |
| - | 4 | ビムパット | 抗てんかん薬 | UCB | 1,828 |
| 3 | 5 | ブレイラー | 統合失調症治療薬 | AbbVie | 1,728 |

ビバンセ/バイバンス、ラツーダは、2021年度の売上

出典：ミクスOnline「2021年度製品売上高」当社一部改変

Roivant社との戦略的提携（2019年12月手続き完了）

- **2023年以降の収益基盤の獲得（米国での「ラツータ」の独占販売期間終了後の成長エンジンを獲得）**
 - ✓ レルゴリクス（マイオバント社）およびビベグロン（ユーロバント社）
- **パイプラインの拡充**
 - ✓ 新規モダリティおよびユニークな特徴を有する多数のアセットを獲得
- **デジタル技術基盤の獲得**
 - ✓ DrugOME、Digital Innovation
- **多様なタレントの獲得、グローバル事業連携の拡大**

株式取得により獲得

スミトバント・バイオフィーマ

- マイオバント・サイエンシズ
- ユーロバント・サイエンシズ
- エンジバント・セラピューティクス
- アルタバント・サイエンシズ*
- スピロバント・サイエンシズ

* 2022年11月 エンジバント社を存続会社として合併

技術移転

DrugOME テクノロジー

独自のデータ分析によりパイプライン獲得・臨床開発を加速させるプラットフォーム

Digital Innovation テクノロジー

ヘルスケアIT関連技術の活用により業務の効率化を図るプラットフォーム

■ 大型化を期待するレルゴリクスの製品価値最大化

Pfizer社との北米でのコ・プロモーションにより、速やかな市場浸透と製品価値最大化を実現する

- 当社連結完全子会社のマイオバント社とPfizer社は、北米におけるレルゴリクスのがん、婦人科領域に関する共同開発・共同販売契約を2020年12月に締結

契約対価：契約一時金 6億5千万ドル（約670億円、マイオバント社が受領済み）、
婦人科領域米国承認時マイルストーン 2億ドル（約210億円、マイオバント社が受領済み）、
販売マイルストーン（可能性あり）を加えた総額で最大42億ドル（約4,350億円）

オルゴビクス(前立腺がん治療剤、2021年1月に米国で発売、
2021年度売上収益 93億円)

- ✓ 経口剤
- ✓ ホルモンの一過性の急上昇が起こらない
- ✓ PSA（前立腺特異抗原）の継続的かつ速やかな低下¹
- ✓ テストステロンの速やかな回復²

ORGOVYX[®]
(relugolix) 120 mg
tablets

マイフェンブリー（子宮筋腫・子宮内膜症治療剤、2021年6月
に米国で発売、2021年度売上収益 13億円）

- ✓ 単一の用法用量
- ✓ 1日1回1錠投与の経口剤
- ✓ 良好な安全性プロファイル
(ホットフラッシュの発現率: 5.6-13.6%³)


Myfembree[®]
(relugolix, estradiol, and
norethindrone acetate) tablets
40 mg, 1 mg, 0.5 mg

(1) 臨床試験ではPSA値をモニタリングし、ORGOVYXの投与から2週間後に平均65%、4週間後に83%、3ヵ月後に92%低下し、48週間の治療期間を通して抑制された

(2) 患者の55%が、オルゴビクス投与終了後90日で、通常のテストステロンレベルの下限 (≥ 280 ng/dL) またはベースラインをこえるテストステロンを達成した

出典: Shore ND, Saad F, Cookson MS, et al. Oral relugolix for androgen-deprivation therapy in advanced prostate cancer. New England Journal of Medicine. 2020 June 4. DOI: 10.1056/NEJMoa2004325

(3) SPIRIT1 1 TLR: 2020/6/23 Webcast, SPIRIT 2 TLR: 2020/4/22 Webcast, LIBERTY 1/2: N Engl J Med 2021;384:630-42

■ 大型化を期待するビベグロンの製品価値最大化

泌尿器科専門医、長期療養施設、処方頻度の高いプライマリ・ケア医を対象とした米国での販売活動により早期の製品価値最大化を実現する

- サノビオン社の販売基盤（販売、流通）を活用する当社グループ会社の連携により、コストシナジーの追求

ジェムテサ(過活動膀胱治療剤、2021年4月に米国で発売、2021年度売上収益 71億円)

- ✓ 単一用量、粉砕できる錠剤
- ✓ 用量調整を必要としない¹
- ✓ 尿意切迫感回数のデータが添付文書に記載されている
- ✓ 血圧上昇の警告がない
- ✓ CYP2D6に関する薬物相互作用の警告がない
- ✓ 前立腺肥大症を伴う過活動膀胱を対象としたフェーズ3試験を米国で実施中



GEMTESA[®]

(1)患者さんは、75mgを有効性のある開始用量として処方される 出典: GEMTESA[®] U.S. FDA label for the treatment of overactive bladder



研究開発

研究領域

アンメット・メディカル・ニーズの高い領域を重点領域とし、革新的な新薬の創出に全力を注ぐ

重点領域

精神神経領域

- ✓ 継続的に製品を創出してきた実績・自社で培った研究開発のノウハウを保有
- ✓ 先端技術を活用した創薬へ取り組む

がん領域

- ✓ 独自技術にフォーカスした研究開発に取り組む
- ✓ 当社グループ内およびアカデミアやベンチャーとの強固なネットワークを保有

再生・細胞医薬分野

- ✓ iPS細胞由来の細胞製品の事業化を目指すトップランナー
- ✓ 世界初の他家iPS細胞由来の再生・細胞製品専用の商業用製造施設を保有

感染症領域

グローバルヘルスに貢献

アカデミア等との共同研究により、薬剤耐性菌感染症治療薬、マラリアワクチンおよびユニバーサルインフルエンザワクチンの研究を展開

フロンティア事業

医薬品以外のヘルスケア領域において、社会課題解決のための新たなソリューションを提供

■ 主な開発品目一覧 (2023年1月31日現在)

 : 精神神経領域
 : がん領域
 : 再生・細胞医薬分野
 : その他の領域
 : フロンティア事業

| 地域 | フェーズ1 | フェーズ2 | フェーズ3 | 申請 |
|----|---|--------------------------------------|---|--|
| 日本 | DSP-9632P (パーキンソン病におけるレボドパ誘発性ジスキネジア) | TP-3654 (骨髄線維症) | EPI-589 (ALS/医師主導治験) | ulotaront (SEP-363856) (統合失調症) |
| | DSP-0187 (ナルコレプシー) | DSP-5336 (急性白血病) | 他家iPS細胞由来細胞医薬 (パーキンソン病/医師主導治験) | ulotaront (SEP-363856) (全般性不安障害) * |
| | DSP-0378 (ドラベ症候群、 レノックス・ガストー症候群) | DSP-0390 (膠芽腫) | | SEP-4199 (双極 I 型障害うつ) |
| 米国 | SEP-378608 (双極性障害) | TP-3654 (骨髄線維症) | EPI-589 (パーキンソン病/ALS) | ulotaront (SEP-363856) (統合失調症) |
| | DSP-3905 (神経障害性疼痛) | DSP-5336 (急性白血病) | ulotaront (SEP-363856) (パーキンソン病に伴う精神病症状) | ulotaront (SEP-363856) (大うつ病補助療法) * |
| | SEP-378614 (未定) | DSP-0390 (膠芽腫) | rodatristat ethyl (肺動脈性肺高血圧症) | ulotaront (SEP-363856) (全般性不安障害) * |
| | SEP-380135 (未定) | TP-1287 (固形がん) | URO-902 (過活動膀胱) | SEP-4199 (双極 I 型障害うつ) |
| | DSP-0038 (アルツハイマー病に伴う精神病症状) | TP-1454 (固形がん) | | ジェムテサ (ビベグロン) (新効能: 前立腺肥大症を伴う過活動膀胱) |
| | DSP-3456 (治療抵抗性うつ) | KSP-1007 (複雑性尿路感染症、 複雑性腹腔内感染症) | | |
| 中国 | | | ulotaront (SEP-363856) (統合失調症) | lefamulin (細菌性市中肺炎) |

*フェーズ2/3試験

■ 精神神経領域

大型化、グローバル展開を期待する開発品への投資

□ ulotarontは、ピーク時に、適応追加も含めてラツータダを超える売上収益を期待

- **ulotaront (SEP-363856)**
統合失調症対象フェーズ3試験の推進（2023年度に結果判明）、追加適応症の臨床試験の推進
- **SEP-4199**
双極 I 型障害うつ対象フェーズ3試験の推進

大塚製薬との開発・販売提携（2021年9月締結）

- グローバルに共同開発を推進
- 臨床試験の実施は適応症毎に分担
- より早く確実に開発・提供し、世界のより多くの患者さんの治療に貢献できるように取り組む

ulotaront (SEP-363856)

【適応症】 統合失調症、大うつ病補助療法、
全般性不安障害

【特 徴】 **ドパミン受容体に作用しない新規作用
メカニズム**

ブレイクスルーセラピー指定

【上 市】 統合失調症対象

米国：2024年度目標

日本・アジア：2026年度目標

SEP-4199

【適応症】 双極 I 型障害うつ

【特 徴】 アミスルプリド鏡像異性体の**非ラセミ
混合物**

セロトニン受容体とドパミン受容体への
作用が双極性障害うつ治療に適したレベ
ルとなるように設計

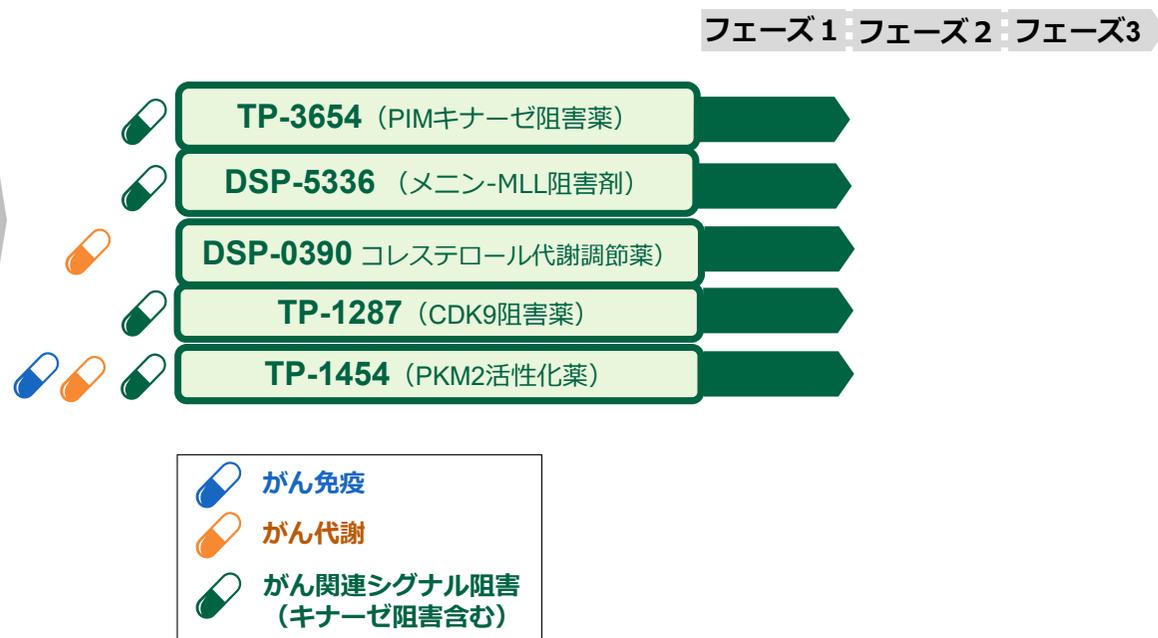
【上 市】 米国：2020年代後半目標

■ がん領域

早期の製品価値の見極めおよび事業化を目指す

- 小規模の試験で最適な適応を見極める取り組みを強化

- ▣ アダプティブデザインの活用
- ▣ 研究と開発の連携強化
 - ✓ 研究から臨床への橋渡し研究
 - ✓ 臨床から研究へのフィードバック
- ▣ 独自のデジタル技術を駆使した臨床および研究データの解析



製品価値の早期見極め

■ 再生・細胞医薬分野

モダリティ展開による新たな治療法への挑戦および実用化

- 十分な治療法のない患者への治療、根治を目指した治療の提供

- ▣ 細胞
- ▣ 組織
- ▣ 移植臓器

世界をリードする再生・細胞医薬に関する知見

- iPS技術の臨床応用
- 実用化を実現する生産インフラ、ノウハウおよび人材
- 薬事規制緩和への取り組み

各モダリティに知見のある人材の活用、技術構築

他家iPS細胞由来細胞製品（パーキンソン病）

【適応症】 パーキンソン病

【特 徴】 神経機能再生を期待する**iPS細胞由来の細胞製品**

京都大学iPS 細胞研究所と共同開発
日本にて先駆け審査指定

【上 市】 日本：2024年度目標
（2022年度：米国にて治験着手）

リサイミック

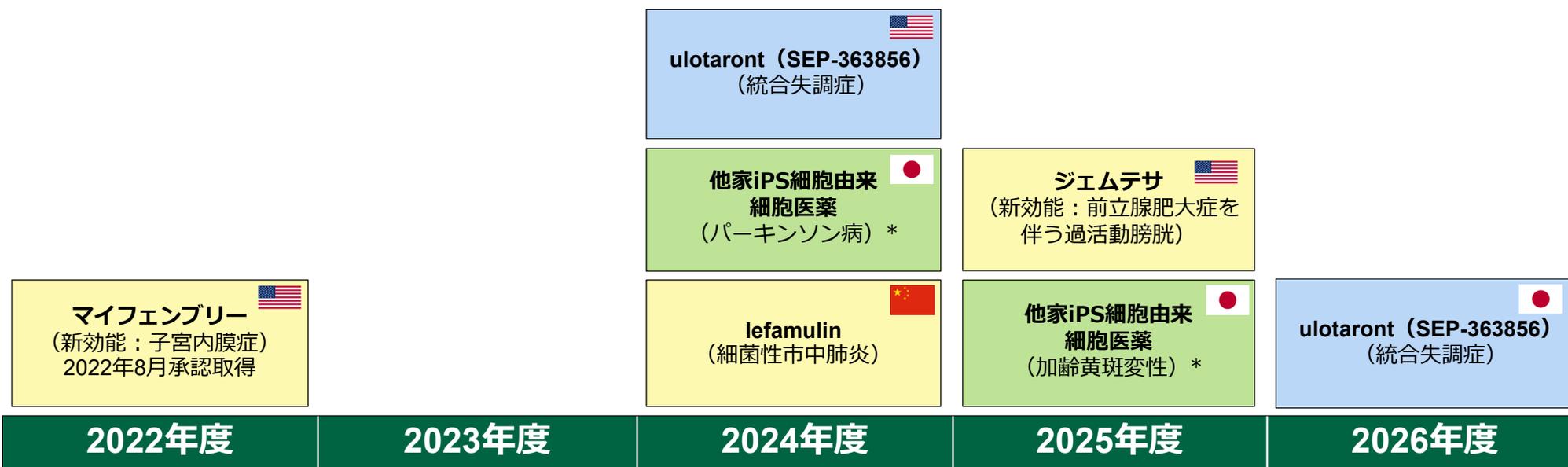
【適応症】 小児先天性無胸腺症

【特 徴】 治療法がなかった致死性・先天性の疾患に対する**世界初の培養胸腺組織製品**

米国にて再生医療先端治療指定、ほか

【上 市】 米国：2022年3月

製品上市目標 (2023年1月31日現在)



- : 精神神経領域
- : がん領域
- : 再生・細胞医薬分野
- : その他の領域

*連携先との合意ではない当社の目標

■ 再生・細胞医薬分野 上市・開発品目一覧（2023年1月31日現在）

| 予定適応症等 | 連携先 | 予定地域 | 細胞種 | 実施状況 |
|--------------------------|----------------------------|----------|--|---|
| 小児先天性無胸腺症 (リサイミック) | デューク大学 | Global | 培養胸腺組織 | 2022年3月販売開始（米国） |
| 加齢黄斑変性 | ヘリオス 理化学研究所 | Global | 他家 iPS細胞由来 網膜色素上皮細胞 | 治験開始に向けて準備中 （日本） |
| パーキンソン病 (先駆け審査指定制度対象) | 京都大学iPS 細胞研究所 (CiRA) | Global | 他家 iPS細胞由来 ドパミン神経 前駆細胞 | 医師主導治験実施中 (フェーズ1/2試験) （日本） 治験開始に向けて準備中 （米国） |
| 網膜色素変性 | 理化学研究所 | Global | 他家 iPS細胞由来 網膜シート (立体組織) | 臨床研究実施中 |
| 脊髄損傷 | 慶應義塾大学 大阪医療センター | Global | 他家 iPS細胞由来 神経前駆細胞 | 臨床研究実施中（亜急性期） 非臨床試験実施中（慢性期） |
| 腎不全 | 東京慈恵会医科大学 バイオス | 日本 北米 | 自家／他家 iPS細胞由来 ネフロン前駆細胞 (立体臓器) | 非臨床試験実施中 |

2022年度
治験開始目標

2024年度
上市目標*

* 上市目標は連携先との合意ではない当社の目標

製品上市目標（フロンティア事業）（2023年1月31日現在）

■ : 医療機器

■ : 非医療機器

| 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度～ |
|--|--------------------------------------|------------------------------------|---|-------------------------------------|--|
| | ウェアラブル 脳波計 (認証) ● | | | | バイオレット ライト (うつ) ● |
| MELTz 手指運動 リハビリテーション システム (認証) *1 ● | 自動採血・保存 デバイス ● | | | | バイオレット ライト (認知症) ● |
| 認知症行動・ 心理症状用機器*2 ● | 難聴者用マルチ 会話表示デバイス ● | バイオレット ライト (うつ) ● | | | デジタル うつ病診断医療機器 ● |
| First Resort メンタルヘルス VRコンテンツ*3 USA | ウェアラブル 脳波計 ● | バイオレット ライト (認知症) ● | MELTz 手指運動 リハビリテーション システム (承認) ● | 社交不安障害用 VRコンテンツ USA | 認知症行動・ 心理症状用機器 (承認) ● |
| | | | | | VR事業 (疾患拡大) USA |

*1 認証医療機器「能動型展伸・屈伸回転運動装置」（一般名収載）として当社が2022年9月に販売開始

*2 主に提携先（Aikomi社：当社関連会社）により試験販売を実施中。2023年度に本格販売予定

*3 主に提携先（BehaVR社）により2022年11月に試験販売を開始、正式販売後の利益は両社で折半

事業内容（デバイス販売、ソリューションビジネス、ロイヤリティなど）は製品により異なる



經營成績、投資・株主還元方針

■ 経営成績、投資・株主還元方針

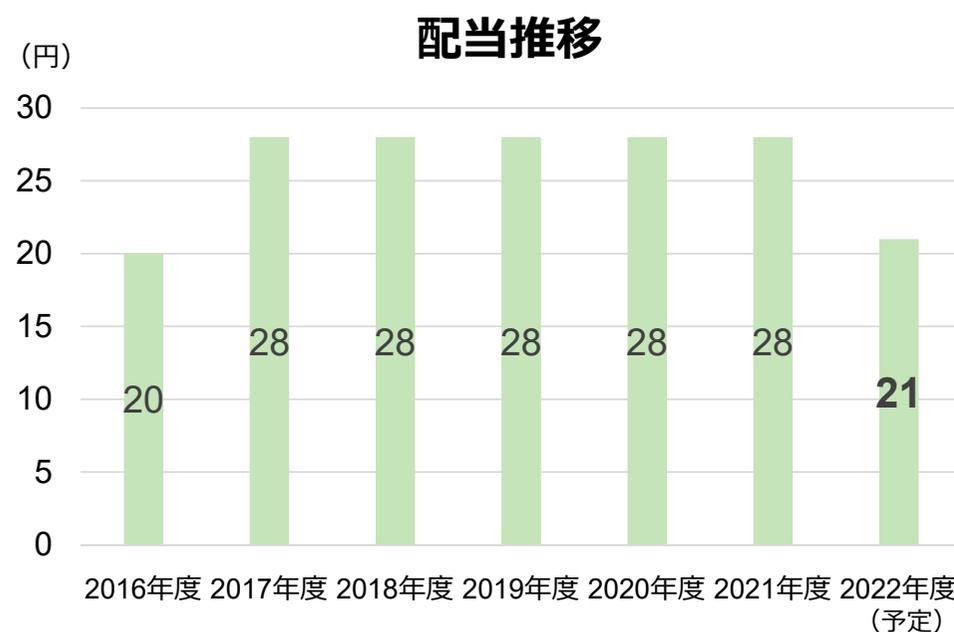
| IFRS（国際会計基準） | 2020年度 （実績） | 2021年度 （実績） | 2022年度 （予定） |
|-----------------------|----------------|----------------|----------------|
| 売上収益（億円） | 5,160 | 5,600 | 5,630 |
| コア営業利益（億円） | 696 | 585 | 340 |
| 1株当たり配当金（円） | 28.00 | 28.00 | 21.00 |
| 連結配当性向（%） | 19.8 | 19.7 | - |
| 投下資本利益率 （ROIC）（%） | 3.1 | 1.7 | △0.6 |
| 自己資本当期利益率 （ROE）（%） | 10.1 | 9.5 | △6.6 |

ROIC：（コア営業利益－法人所得税）÷（株主資本＋有利子負債）

ROE： 当期利益÷株主資本

- **ROE** : 2020年代後半にROE10%以上を目指す
- **研究開発投資** : 中長期的成長のための研究開発投資は継続
- **戦略投資** : 中計2022目標「5年間で3,000-6,000億円」のうち3,300億円を実施済
当面は大型投資は実施せず、パイプライン獲得目的での投資は引き続き検討予定

- 安定的な配当に加えて、業績向上に連動した増配を実施
- 5年間（2018～2022年度）平均の配当性向：20%以上



■ 米国「ラツータ」に依存した収益構造からの転換期

米国の「ラツータ」の2023年2月での独占販売期間の終了に伴い、
2023年度から「ラツータ」（2021年度実績2,041億円）の大幅な売上収益の減少が見込まれる

新たな成長に向けて

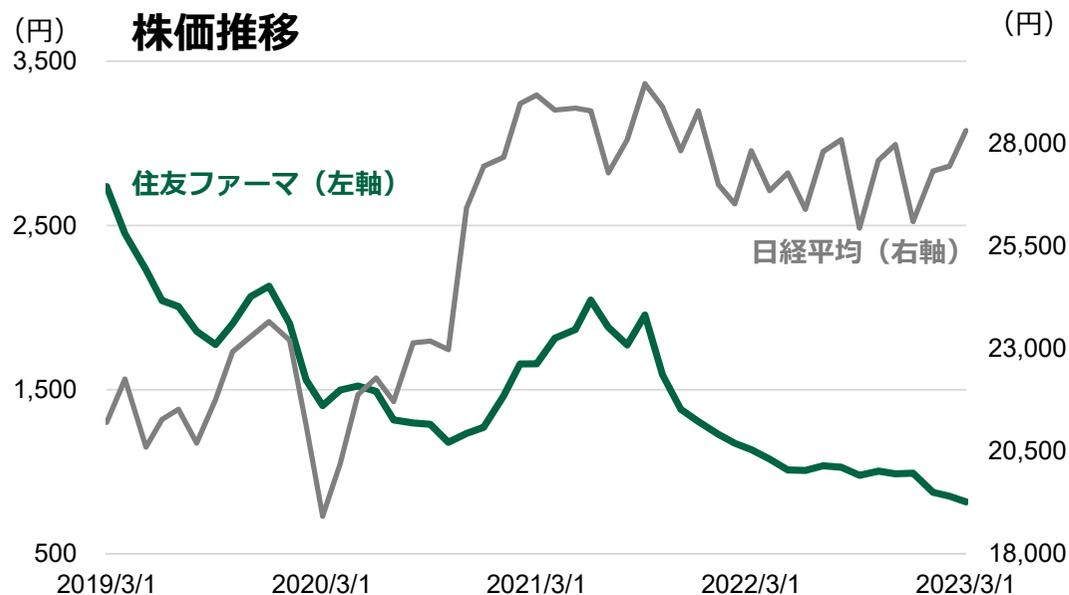
- 新製品3品目（オルゴビクス、マイフェンブリー、ジェムテサ）の早期最大化
 - ✓ 米国ラツータの独占販売期間終了後の成長エンジンとする
- ulotarontのグローバル展開によるラツータを超える大型化に注力
 - ✓ ulotaront（SEP-363856）：2024年度上市予定（米国）。その後の適応追加を目指す
 - ✓ 大塚製薬との開発・販売提携（2021年9月締結）
- 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病など）の臨床開発促進
 - ✓ 従来の医薬品では解決できない疾患に対するソリューションを提供
- 初期開発品の開発促進
 - ✓ 2030年代半ば以降を支える自社創製品の成長ドライバーを創出

2023年4月中に、2023～2027年度までの中期経営計画を公表予定

株式の状況

株式の数（2022年9月30日現在）

| | |
|-------------|---------------------------------|
| 発行可能株式数 | 1,500,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 397,900,154株 |
| 主な大株主（持株比率） | 住友化学株式会社 51.76 % |
| | 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） 10.02 % |
| | 株式会社日本カストディ銀行（信託口） 3.41 % |



ご参考（2023年3月6日現在）

株価： 822円

配当利回り： 2.55%

時価総額 約3,300億円

JPX日経インデックス400構成銘柄

個人投資家様向けIR活動のご紹介

WEBサイト：株主・投資家の皆様へ

<https://www.sumitomo-pharma.co.jp/ir>

決算資料などの情報や説明会の動画を掲載



個人投資家様用
IRニュースメール配信
ご登録いただきますと、
当社のニュースリリースやIR情報等の新着情報を
e-mailにてお知らせします



参考資料

会社概要

| | |
|--------|--|
| 合併期日 | 2005年10月1日 (大日本製薬と住友製薬が合併し発足) |
| 資本金 | 224億円 |
| 代表者 | 野村 博 (代表取締役社長) |
| 本社所在地 | 大阪本社：大阪府中央区道修町2-6-8 東京本社：東京都港区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー |
| 従業員数 | 連結：6,816名、単体：3,054名 (2022年12月31日現在) |
| 売上収益 | 5,600億円 (2021年度) |
| 研究開発費 | 940億円 (2021年度) |
| コア営業利益 | 585億円 (2021年度) |
| 証券コード | 4506 (東証 プライム) 単元株式数100株 |



野村 博

*国際会計基準 (IFRS) の適用について

2017年度より国際会計基準 (IFRS) を適用し、経常的な収益性を示す利益指標として「コア営業利益」を採用しています。
(コア営業利益：営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益 (非経常項目) を除外したもの)

■ 中期経営計画 2022 ビジョンと2033年の目指す姿 (2019年10月更新)

ビジョン

もっと、ずっと、健やかに。
最先端の技術と英知で、未来を切り拓く企業

変わりゆくヘルスケア領域での社会の課題を解決する企業として、
2033年に「グローバル・スペシャライズド・プレーヤー」の地位を確立することを目指す

グローバル・スペシャライズド・プレーヤー

医薬品+ソリューション

医薬・細胞
ソリューション



ヘルスケア
ソリューション
(フロンティア事業)

3領域でグローバルリーダー

精神
神経

がん

再生
細胞

価値に
フォーカス
したベスト
インクラス

2033年の姿

中期経営計画2022 事業基盤の再構築

成長エンジンの確立



柔軟で効率的な組織基盤づくり

Roivant社との戦略的提携により当社の成長を加速

ラゾーダ独占期間終了後の
持続的成長ドライバー



DrugOME、Digital Innovation
によるデータ技術に基づく
新しいビジネスモデルに変革

■ 日本・北米・中国を柱とした地域戦略

欧州
パートナー企業との連携

日本
安定的な収益確保を目指した
体制整備

北米
ポスト・ラツォーダを見据えた成長路線
の確立

中国・アジア
外部提携による売上最大化お
よび内部費用の抑制、利益貢
献可能な地域への事業拡大

オセアニア
パートナー企業との連携

中南米
パートナー企業との連携

日本医薬品事業

日本（医薬）セグメント

■ 売上収益：1,261億円（2022年度予想）
1,499億円（2021年度実績）

■ MR 数：1,040名（2022年12月31日現在）
※うち、CNS MR 約300名

営業重点領域

- 精神神経領域：トレリーフ®（パーキンソン病）、ラゾダ®（統合失調症・双極性障害のうつ症状）、ロナセン®テープ（統合失調症）、イフェクサー®（うつ病・うつ状態）
- 糖尿病領域：ツイミーグ®（2021年9月発売）、エクア®、エクメット®、メトグルコ®
- 希少疾病領域※：アガルシダーゼ ベータBS「JCR」（ファブリー病）

※アンメット・メディカル・ニーズが高く、高度な専門性が求められる領域

トレリーフ®

| | |
|-------|------------------------------|
| 売上収益 | 164億円（2021年度） |
| 発売日 | 2009年3月 |
| 効能・効果 | パーキンソン病、レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム |
| 特長 | レボドパ賦活型パーキンソン病治療薬 |



ツイミーグ®

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 売上収益 | 2億円（2021年度） |
| 発売日 | 2021年9月 |
| 効能・効果 | 2型糖尿病 |
| 特長 | 既存の経口血糖降下剤とは異なる構造を有する新しいクラスの経口血糖降下剤 |



北米事業

北米セグメント

- 売上収益：3,406億円（2022年度予想） ■ MR数：750名（2022年12月31日現在）
- 3,198億円（2021年度実績）

| | | |
|---------------------|------------------------|--------------------|
| 会社名 | サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク | スミトバント・バイオフィーマ・インク |
| 設立年月 | 1984年1月 | 2019年10月 |
| 決算期 | 3月末 | 3月末 |
| 場所 | 米国マサチューセッツ州マールボロ | 米国ニューヨーク州ニューヨーク |
| 従業員数（2022年12月31日現在） | 1,005名* | 1,162名* |

*傘下の子会社含む

営業重点領域

- 精神神経領域：ラツダ、アプティオム
 - 慢性閉塞性肺疾患（COPD）領域：ロンハラ マグネア
 - がん領域：オルゴビクス（2021年1月発売）
 - その他領域：マイフェンブリー（2021年6月発売）
 - ジェムテサ（2021年4月発売）
 - リサイミック（2022年3月発売）
- ⇒ サノビオン社
- ⇒ マイオバント社（スミトバント社傘下）
- ⇒ ユーロバント社（スミトバント社傘下）
- ⇒ エンジバント社（スミトバント社傘下）

LATUDA®（ラツダ）

| | |
|------|---|
| 売上収益 | 2,041億円（1,816百万ドル）（2021年度） |
| 発売日 | 2011年2月 |
| 効能 | 統合失調症、双極Ⅰ型障害うつ |
| 特長 | ドパミン D ₂ 、セロトニン 5-HT _{2A} 、セロトニン5-HT ₇ 受容体に親和性を示し、アンタゴニストとして作用 |



ORGOVYX®（オルゴビクス）

| | |
|------|---|
| 売上収益 | 93億円（83百万ドル）（2021年度） |
| 発売日 | 2021年1月 |
| 効能 | 前立腺がん |
| 特長 | 1日1回経口投与の低分子GnRH（ゴナドトロピン放出ホルモン）受容体アンタゴニスト |





Sumitomo Pharma

Innovation today, healthier tomorrows